

特集

モチベーションクライシスに どう向き合おうか

大学進学率が50%を超え、入学者の意識や資質は多様化している。

目的を持って大学を選び、前向きに学生生活に臨む学生がいる一方で、

本来の希望とは異なる進学によって失意のまま過ごす学生、

将来のことをよく考えずに進学し、漫然と日々を送る学生も多い。

また、第1志望で入学したはずなのに、その後に意欲を失うケースもある。

たとえこれらの原因が入学前にあったとしても、

受け入れた学生は責任を持って成長させ、社会に送り出すのが大学の責務だ。

学生の意識を変え、自学が目標に掲げる力を育てるために、

教育や学生支援のシステムを今一度見直すよう提案したい。

モチベーションクライシスの実態

学生の現状

入試難易度にかかわらず、
「授業に不安」「再受験を考える」

現状確認①……………P.4

大学の支援

複雑化する相談への対応、
教職員の確保等に課題

現状確認②……………P.7

学生の実態に合った支援のために

職員が直接会話し、学生の現状を把握
教育活動で成果を挙げた職員を登用

オピニオン①……………P.10

支援の質的充実のために

調査等による学生の現状・意識の把握
独自かつ総合的な支援施策の立案

オピニオン②……………P.12

モチベーション向上をめざす実践

正課の授業と連携した学習支援でつまづきを防止

事例1 広島工業大学……………P.14

成績閲覧システムで気づきと自主的行動を促す

事例2 京都工芸繊維大学…P.16

帰属意識を高め、学生生活に充実感を与える

事例3 麗澤大学……………P.18

今後めざすべき支援の方向性

自立した学生に成長させる支援こそが重要

まとめ……………P.20